

大事故、川崎の電車大事故が連続しておこり、米人医師からお見舞いを言われて、初めて気付いて、恥ずかしい思いをした。

その後新幹線が開通したり、東京オリンピックがあつたり忙しい時代がすぎ、クラブも次第に増強されていったが、期せずして停滞の時代が到来した。丁度その頃、私が会長を拝命していた。知恵者がいてクラブ拡大の気運が高まった。加藤福松会員が特別代表となり以外とすんなりと湯河原南クラブが誕生した、それが昭和45年4月21日である、記録によると、吉光会長はもつぱら、其の方に専心していた様で、ほとんど業績がない、但し、其の時多数の、新会員をを獲得した。

湯河原クラブは産れ変わった様に活発になった。十周年記念事業として城山付近山頂に植えた四千本の山もみじはすくすくと育ちかなりの大木に育つたのもある、毎年初秋に下草刈をしているが、汗をかいた後の弁当の味の良いこと申す迄もない。

記念事業としてはそれが最も記憶に著しい湯河原小学校の中庭に、しだれ梅の木の植樹。20周年記念には湯河原高校々庭に、ミモザアカシヤの植樹等々、自分が汗を流した仕事は割合に思い出しやすい。然しそうでない場合は すつかり忘れていている。駅のベンチにロータリーのマークを発見し、あっそうだったと思い、町立図書館の アプローチ脇の母子像は亀貝 保 先生の作で、図書館落成記念に 湯河原ロータリークラブより贈ったものだと目にした時に思い出す。

然し、自分がロータリークラブの会員であることを一番強く自覚するのは、例会に出席して、仲間（仲間と呼ばせて頂きます）と雑談をする時だ！ただ無邪気にみかんの話をしたり、釣りの話をしたりする時である。金銭的貢献は敗戦直後の日本の苦しみを思いだし、あの頃、助けられた事えのささやかな御返しのために行っている。



ロータリーソングでしたら小沢征爾よりも・・・おかげで後継者が育たない、会員の各々方、どっちを向いて歌っているの、真のブリティッシュなロータリアンである。



## 創立三十五周年によせて 初代幹事 加藤福松

早いもので、30周年の乾杯をしたのが、ついでこの間の事の様に思いながらも5年を経過。

今回の35周年に当たって春宮記念誌編集委員長から例会の席で原稿用紙を渡されて、記念について書けとのこと。

たまたま私が創立時の初代幹事だったのでクラブの何かの行事のたびに書けと云われるけど、書いたり、しゃべつたりが一番ニガ手！、締め切りが近づくとも、天野屋さんの職業奉仕に撤した美味しい食事も、のどを通らない、少々大袈裟だがあせりを感じます。

いつも型のような思い出話のきまり文句を何度も書くわけにいかない。委員長の意には添はなく、甚だ恐縮だけど、特に印象深いことを私なりに申し上げて今回の責めをはたしたい。

我がクラブで今までに一番大きな事業は15周年記念事業として、岩井会員提唱の山モミジの植樹ではないかしら。20年すぎた今日では随分大きく成長して、群生し誇らしげに、一つの山を占領しております。

毎年の下草刈りが社会奉仕委員長の号令で例会場を山の現地に変更して夏の盛の頃行われます。

当日はSAAが用意してくれた天野屋さんの美味しい玉子焼きの入った特製弁当、西瓜、及川会員の営業用の、大きな釜で仕上げた、トウモロコシ等々、その他、飲み物、盛り沢山の御馳走を冗談や、あげ足とり、など談笑の中での昼食、一年を通じて一番楽しい例会だと思う。

私は老齢だからなんにも出来ないけど会員の皆様は、なれぬ手つきで鎌を持って、汗を流して、モミジの廻りの下草を刈る。

こうした行事が会員間の親睦と友情が生れる良き、キツカケの一日となる、植樹を実現してくれ岩井会員に感謝している。こうした現地での賑やか例会だけど、裏方を務める事務局の中川女子の努力にお礼を云いたい。

さて35年と云えばクラブとしても、一つ目、二つ目ぐらいの節目だと思う。

50周年を待たずこの機会にロータリークラブなればこそそのR.I中心型の活動でなく日本国内のクラブが一丸となつて米山記念奨学委員会から更に米山財団へ大発展させての社会事業は出来ないものか、私は創立間もない頃から考えてる事の一つです。

交換学生制度も勿論結構な事業だが、日本的な奉仕精神を身につけさせる目的での事業は出来ないだろうか。

全国のクラブには立派な教育家や経営者がメンバーとしておられるので、そうした方々の助力で可能性を研究討議が成されることを望んでおります。片田舎のチツポケなクラブから出た、大きな夢が国内クラブの協力を得て実現出来たら素晴らしいことダナーと思います。

ロータリークラブ今日の大発展もポールハリスら4人の理想から出発したと云うのであれば・・・当湯河原クラブの正夢でありたい。



クラブの親睦旅行で訪れた米山記念館で、ご尊敬する米山梅吉翁と友に、記念撮影の加藤 福松 会員。 1990.

## クラブの概要

1. 名 称 湯河原ロータリークラブ
2. 区 域 限 界 湯河原町広町通より鍛冶屋郡道線を経て東海道線より町道4号線を北上して川掘部落を除く湯河原町  
人口 28,523人 (H.9.3.1) 現在
3. 隣 接 ク ラ ブ 湯河原南R.C 小田原R.C 箱 根R.C 小田原北R.C  
小田原城北R.C 小田原中R.C 足 柄R.C  
熱 海R.C 熱海南R.C 網 代R.C
4. 創 立 昭 和 37 年 4 月 20 日 (1962)  
認 承 昭 和 37 年 5 月 7 日 (1962)  
伝 達 式 宮 坂 寛 次 郎  
スポンサークラブ 小田原R.C
5. 事 務 所 湯河原町宮上623 天野屋本館内  
電 話 0465 (62) 2121  
例 会 場 同 上  
例 会 日 金 曜 日 0 : 30pm ~ 1 : 30pm  
理 事 会 毎月第一例会日 11 : 00am ~ 0 : 20pm
6. 創立当初会員数 正 会 員 24 名  
伝達式当時会員数 会 員 23 名 アディショナル正会員 1 名  
現在会員数 会 員 41 名 内 シニア・アクティブ会員 6 名  
名誉会員数 1 名  
会員の年齢構成  
構 成 1997. 5. 2 現在  
30 ~ 40 0 名  
41 ~ 50 11 名  
51 ~ 60 11 名  
61 ~ 70 8 名  
71歳以上 10 名  
計 40 名  
最 年 長 87 歳  
最 年 少 43 歳  
平均年齢 59.6 歳  
会 費 1年 ¥292,000 とし、年4回分割払込(7、10、1、4月)とする。  
入 会 金 30,000



# 湯河原ロータリークラブ創立経緯

## 第一回準備会

日時 昭和37年2月26日 午後3時

場所 天野屋旅館新館

天野弘之氏提唱により湯河原ロータリークラブ  
(仮称) 結成につき準備会開催

出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、  
小沢新太郎、檜原正愛、加藤福松

決議 1. 小田原ロータリークラブをスポンサー  
クラブとして湯河原ロータリー  
(仮称) を設立すること。  
2. 本日会合の6氏をキーマンと決定。

## 第二回準備会

日時 昭和37年3月2日 午後2時

場所 天野屋旅館新館

出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、  
小沢新太郎、檜原正愛、加藤福松

決議 1. 当初25名位にて発足のこと。  
2. 来る3月15日各地区(真鶴・吉浜・温泉  
場・奥湯河原) 予想メンバー持寄り事、

## 第三回準備会

日時 昭和37年3月15日 午後3時

場所 天野屋旅館新館

出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎、  
小沢新太郎、檜原正愛、加藤福松

スポンサークラブ小田原ロータリークラブ  
より指導として

飯沼相三郎 小田原ロータリークラブ理事

佐藤 謙吉 小田原ロータリークラブ理事

井上 仙蔵 小田原ロータリークラブ幹事

八亀 武雄 湯河原町長

橋本 徳治 真鶴町長

チャーターメンバー浜田三郎、平井吉之助

矢ノ下美智雄、三氏欠席の外全員

湯河原ロータリークラブ創立総会次第(案)

- 1. 開会の辞           スポンサークラブ幹事 井上仙蔵
- 1. 君が代斉唱
- 1. 来賓紹介           特別代表 宮坂寛次郎
- 1. 経過報告           同    上
- 1. 議    事           議    長 特別代表

1. 役員選任           同    上

1. 役員発表           同    上

1. 会長挨拶

1. メンバー紹介   湯河原クラブ会長

1. ガバナー告示   中村米平ガバナー

1. 来賓祝辞

1. 閉会の辞           湯河原クラブ副会長

以  上

準備会は和気あいあいのうちにも極めて厳粛  
に行われ定款の決定並に役員選任は議長一任  
として定款は別添標準ロータリークラブ定款  
並に推奨クラブ細則に則り、役員は別項の通  
り決定した。

理事会  長 天野 弘之   幹  事 加藤 福松

理事  副会長 小沢栄三郎   会  計 八亀 広蔵

理  事 小沢新太郎   会場監督 八亀 昌美

理  事 檜原 正愛   理  事 高橋 柳吉

理  事 伊藤 鶴松

職業  奉仕  委員長 小沢新太郎

社会  奉仕  委員長 檜原 正愛

国際  奉仕  委員長 高橋 柳吉

クラブ奉仕担当理事 小沢栄三郎

尚ロータリークラブ関係の来賓及び八亀湯河原、

橋本真鶴両町長からも丁重な祝辞を頂戴した。

式後盛大なビールパーティーでクラブの発展を

祝し、仮クラブとして発足した。又、定款中に

入会金1万円、年額会費2万円 例会日 毎週

金曜日 午後12時30分より1時30分。

例会場 西相信用金庫本店会議室と定めた。

特別代表 宮坂寛次郎 事務員 堀氏 出席

決 議 1. チャーターメンバーとして次の通り

24名を決定。

湯河原ロータリークラブチャーターメンバー

天野 弘之 日本旅館   杉山  実 石油販売

五十嵐寅治   ホ テ ル   柏木 英雄 幼稚園

八亀 昌美 日本料理   加藤 福松 請負業

平井吉之助 石材販売   脇山 長尾 港湾建設

橋本 平蔵 住宅経営   松井 利男 信用金庫

小沢栄三郎 不動産賃貸 矢ノ下美智雄 短期金融

## 八亀 昌美

八亀 広蔵 温泉経営 奈良原正愛 繊維品販売  
 吉光 閔爾 耳鼻咽喉科 直居 重雄 ゴルフコース  
 平間 茂夫 歯科医 佐藤 咲三 ヘルスリゾート  
 中根 孝保 医学研究 高橋 柳吉 観光事業  
 伊藤 鶴松 旅館組合 小沢新太郎 柑橘栽培  
 熊本 賢三 精油製品販売 浜田 三郎 病院

2. 小田原ロータリークラブへチャーターメンバー提出のこと。

### 第四準備会

日時 昭和37年4月4日 午後2時  
 場所 天野屋旅館新館

出席者 天野弘之、高橋柳吉、小沢栄三郎  
 小沢新太郎、檜原正愛、加藤福松  
 スポンサークラブ小田原ロータリークラブより指導のため、堀事務員が出席。

決議 1. 創立総会を次の通り決定  
 日時 昭和37年4月20日 午後1時  
 場所 天野屋旅館新館ロビー  
 2. 各チャーターメンバーの職業分類再確認  
 3. 定款案決定  
 4. 4月9日(月)小田原ロータリークラブの例会をキーマンは見学のため出席すること。

### 創立総会

日時 昭和37年4月20日 午後1時  
 場所 天野屋旅館新館ロビー  
 来賓

中村 米吉 地区ガバナー  
 柳瀬 省吾 パストガバナー  
 湯浅 恭三 ガバナーノミニー  
 清瀬 二郎 拡大委員  
 岩崎 裕偉 第二分区代理  
 宮坂 寛次郎 特別代表  
 武田 国三 小田原ロータリークラブ会長  
 今井徳左衛門 小田原ロータリークラブ幹事

24名のチャーターメンバーで発足した湯河原ロータリークラブは35周年を迎えて4名の現役会員がお元気でガンバッテ毎例会に楽しく出席され、後輩の指導、相談を持ちかければ良き相談相手に、各々の委員会に所属活動を続けています。

八亀昌美会員73歳、初代 S. A. Aとして腕をふるわれ、第十代会長、創立20周年記念実行委員長で湯河原高校の庭園に『ミモザアカシア』を創立30周年に記念事業委員長として、温泉場商店街に『椿と山茶花』等々、三大奉仕委員長も何度も勤められた。が！何といてもスマイルボックス委員長が一番似合うし巧い、お顔は決してスマイルとは申しませんが！。



\*八亀さんは後輩を育てるのも上手、石井会員にアドバイスを与えながら、今日も張り切り会員からスマイルを取り上げる、そして本人快感のあまりニンマリ・スマイルする。

# 湯河原ロータリークラブ歴代役員表

| 代 数     | 年 数     | 会 長       | 副 会 長     | 幹 事             |
|---------|---------|-----------|-----------|-----------------|
| 初 代     | 1962～63 | 天 野 弘 之   | 小 沢 栄三郎   | 加 藤 福 松         |
| 二 代     | 1963～64 | 天 野 弘 之   | 小 沢 栄三郎   | 加 藤 福 松         |
| 三 代     | 1964～65 | 小 沢 栄三郎   | 直 居 重 雄   | 八 亀 昌 美         |
| 四 代     | 1965～66 | 直 居 重 雄   | 檜 原 正 愛   | 杉 山 実           |
| 五 代     | 1966～67 | 檜 原 正 愛   | 八 亀 広 蔵   | 五 味 淳 芳         |
| 六 代     | 1967～68 | 八 亀 広 蔵   | 相 沢 安 信   | 稲 葉 隆           |
| 七 代     | 1968～69 | 高 橋 柳 吉   | 加 藤 福 松   | 三 輪 宣 照         |
| 八 代     | 1969～70 | 吉 光 閔 爾   | 平 間 茂 夫   | 八 亀 民 夫         |
| 九 代     | 1970～71 | 加 藤 福 松   | 大久保 甫     | 浅 田 真 章         |
| 十 代     | 1971～72 | 八 亀 昌 美   | 稲 葉 隆     | 林 武 蔵           |
| 十 一 代   | 1972～73 | 杉 山 実     | 五十嵐 寅 治   | 岩 井 徳 太 郎       |
| 十 二 代   | 1973～74 | 浅 田 真 章   | 丹 羽 康 之   | 石 川 雅 雄         |
| 十 三 代   | 1974～75 | 林 武 蔵     | 菅 原 宏     | 西 山 清           |
| 十 四 代   | 1975～76 | 稲 葉 隆     | 及 川 修 助   | 西 山 晃 一         |
| 十 五 代   | 1976～77 | 西 山 清     | 岩 井 徳 太 郎 | 春 宮 寛 治         |
| 十 六 代   | 1977～78 | 岩 井 徳 太 郎 | 平 間 茂 夫   | 近 藤 保           |
| 十 七 代   | 1978～79 | 平 間 茂 夫   | 吉 田 充     | 高 知 尾 朝 行       |
| 十 八 代   | 1979～80 | 吉 田 充     | 大久保 甫     | 伊 藤 邦 彦         |
| 十 九 代   | 1980～81 | 大久保 甫     | 及 川 修 助   | 西 山 晃 一         |
| 二 十 代   | 1981～82 | 及 川 修 助   | 黒 須 正 夫   | 高 橋 実           |
| 二 十 一 代 | 1982～83 | 黒 須 正 夫   | 室 伏 光 雄   | 岩 立 信 也         |
| 二 十 二 代 | 1983～84 | 室 伏 光 雄   | 西 山 晃 一   | 浜 野 一 春         |
| 二 十 三 代 | 1984～85 | 西 山 晃 一   | 近 藤 保     | 空 本 善 吉         |
| 二 十 四 代 | 1985～86 | 近 藤 保     | 石 川 雅 雄   | 鈴 木 至           |
| 二 十 五 代 | 1986～87 | 石 川 雅 雄   | 春 宮 寛 治   | 天 野 邦 英         |
| 二 十 六 代 | 1987～88 | 春 宮 寛 治   | 空 本 善 吉   | 府 川 清           |
| 二 十 七 代 | 1988～89 | 空 本 善 吉   | 伊 藤 邦 彦   | 小 松 雄 成         |
| 二 十 八 代 | 1989～90 | 伊 藤 邦 彦   | 岩 立 信 也   | 浅 田 真 隆         |
| 二 十 九 代 | 1990～91 | 府 川 清     | 熊 野 浩 三 郎 | 伊 藤 伸 之         |
| 三 十 代   | 1991～92 | 高 知 尾 朝 行 | 木 村 竹 次   | 八 亀 義 臣         |
| 三 十 一 代 | 1992～93 | 小 松 雄 成   | 山 下 貞 夫   | 室 伏 安 雄         |
| 三 十 二 代 | 1993～94 | 伊 藤 伸 之   | 鈴 木 至     | 杉 山 茂 久         |
| 三 十 三 代 | 1994～95 | 鈴 木 至     | 八 亀 義 臣   | 土 肥 野 修         |
| 三 十 四 代 | 1995～96 | 八 亀 義 臣   | 室 伏 安 雄   | 二 見 豊 廣・平 井 弘 幸 |
| 三 十 五 代 | 1996～97 | 室 伏 安 雄   | 杉 山 茂 久   | 林 善 丈           |